



ワーク・ライフ・バランスは、自分自身のプロデューサーとなること

「ワーク・ライフ・バランス」は、働く人が、他人とは違う自分オリジナルの「何か」を2つも3つも見つけて仕事を通してさらに「一流」にすべく、磨き上げていく過程である。いわば、自身のプロデューサーとなって自分の人生を作り上げていくのである。中小企業経営者は、ユニークな経営理念、熱い使命感を持っている方が多い。働く人がそれに共感し、自分の「何か」を全力投入して役割を果たすことで社会貢献する。それは、会社や社会状況がどうなろうと、対応して生きていける「強くて良い」自分の人生を企画していくことでもある。

今後は、経営者や幹部自身も、一生活者としてどのようにワーク・ライフ・バランスを実践しているか、その姿を働く人に

ロールモデルとして示さざるを得なくなるだろう。従業員と距離感の近い中小企業経営者は、なおさらだろう。

まつうら
松浦 なつひ

(株)会社業務研究所
ワーク・ライフ・バランス 研究員